

うつのみやまちづくり市民会議 議事録

会議の名称	市民会議（第11回都市自治分科会）
開催日時	平成18年8月22日（火）午後6時から8時
開催場所	宇都宮市役所 5階入札室
出席者	（市民委員）中村会長，浅見副会長，浅野（薫）委員，浅野（政）委員， 柿沼委員，小針委員，清水委員，高野委員，船津委員 （欠席：川又委員，橋立委員） （市事務局）
会議内容	・事業の検討
会議資料	1. 第11回分科会資料
発言者	発言内容
進行	重点課題をもとに事業を議論してきましたが，他の分科会では重点目標， 施策と体系だって議論しているところもあります。全体発表会では各市民 委員会とフォーマットをそろえるために，当分科会でも重点目標と施策を 設ける必要があります。 ただし，重点目標も施策も，重点課題と事業が固まっていれば，言い方は 悪いですが，言葉の表現で作成できます。そのため，私と事務局で重点 目標と施策についてはまずは案を作成して皆さんにご提示するかたちで考 えておりますが，いかがでしょうか。
各市民委員	（異議なしの声）
市民委員	事業名を見ただけで事業内容がわかるようにしたほうがよいと思います。 事業の内容だけでなく，事業名についても議論していったほうがどうでしょ うか。
各市民委員	（事業の具体化のため各市民委員が議論）
進行	時間がきたので今回はここまでとします。次回は，重点目標や施策の案を お示しした上で，事業の内容を更にブラッシュアップします。 次回の日程は9月19日（火）18時からです。また，次々回については， 合同会議が10月に予定されていますので，次回の進捗をみて決めましょ う。以上で第11回の都市自治分科会を終了します。

【参考】

①「母親サポートセンター」に関する論点

- ・義務教育としたのは、就学前の育児に関する母親支援はある程度用意されているので、それ以後の支援を充実するという意味であったと思う
- ・就学前の悩みは特に重いため、義務教育に限定しないほうがよいのでは
- ・臨床心理士をいれ、心のケアをするプログラムをしてはどうか
- ・場所だけ行政が援助して、市民がプログラムを提供するという考え方はどうか
- ・母親の育児を代替するサービスではなく、母親の育成や心のケアを中心としたセンターではないのか。母親が直面する問題に関する講演会の開催とか
- ・いろいろなサービスはあるけれども、知っている人がいるから、地域や学校だと話せない。母親のかけこみ寺がほしい
- ・上記については、教育センターで教育相談室があり、学校生活だけでなく、子育て全般、また地域になじめないといった相談も含め受けている。16年から地区市民センターで保健士が子育てに関する悩み相談はとっている
- ・教育相談室は、かなり特別な状況にある人のためのサービスであって、もっと気軽に悩みを相談するものではないのでは
- ・おばあちゃんが集まれる場所があり、そこに気軽に母親が訪れて相談できるのはどうか
- ・民生委員や保護司は他言していけないことになっているが、その点はクリアする必要がある。評判がある人を選ぶ方法を考える必要がある。

→「母親サポートセンター」の事業内容の検討は次回に引き継ぐ

②「コミュニティビジネス」に関する論点

- ・既に市民活動助成資金はある。今回の提案はそれを大型化したものである
- ・既に宇都宮ベンチャーズが活動しているし、宇都宮大学もバックアップしているなど、現状でも充実しているのではないか
- ・個人の利益に結びつくようなマッチングだと商工会議所の領域になってしまう
- ・マザーファンドは難しい

→「コミュニティビジネス」を今回事業として提案することは難しいとの意見が多数

③「地域通貨」に関する論点

- ・知らない人同士が、こんにちは、ありがとう、というお金で解決ではなく、交流と助け合いにつながっていくのが地域通貨が目指すところ
- ・組織的に、団体で導入というよりは、5～10人でスタートする
- ・地域通貨は全市的に使われるようになるのか
- ・自治会や地区ごとの活用であるとしても、利用が盛んに行われるとは考えにくいのでは

→「地域通貨」を今回事業として提案することは難しいとの意見が多数

④「マッチング型まちづくり活動」に関する論点

- ・同様の仕組みでの助成は宇都宮市で既に行われている
- ・助成活動は既にやっているので提案するまでもないのではないか

→「マッチング型まちづくり活動」を今回事業として提案することは難しいとの意見が多数